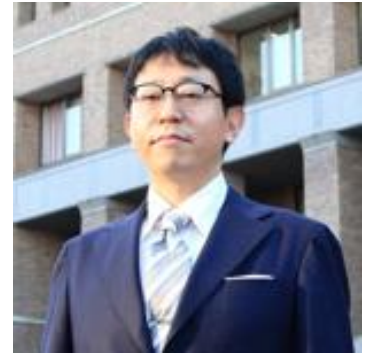


先日、数年前に書いた本の「あとがき」を読み返しておりました。



長与専齋とかかわるようになって随分と長い月日がたった。学生時代読んだ本には、日本の政治は官僚主導であるとの認識が強く打ち出されていた。西欧諸国の経験からすると、福祉国家の形成とともに官僚の役割も大きくなる傾向がある。ところがわが国では、福祉国家の形成とは関係なく、戦前より官僚が国家の形成に主要な役割を演じてきたというのである。わたくしは国家の運営と官僚という視点に興味をもったものの、どのようなアプローチが有効であるのかをなかなか見出せずにいた。図書館に出かけては官僚に関する書物を読み漁っていると、官僚の足跡を整理することが、その国の官僚を知る手掛かりになると思い立ち、歴史書に触れることが多くなった。

戦前日本の官僚や官僚制に関する業績にしばらく触れていくと、不平等条約の改正、富国強兵、殖産興業、法典編纂、憲法の制定等は明治国家の重要な案件であったことがしきりに論じられる一方、やはり明治期の住民や官僚にとって重大問題であったはずのコレラをはじめとする伝染病や衛生の問題についてはあまり関心が払われていないことに気づき始めた。そして明治政府の伝染病対策を調べていくと、長与専齋に行き着いたのである。

(『長与専齋』長崎文研社、2019年、「あとがき」より)

この本を書くまでにはいろいろな人にお世話になり、図書館で本と触れる中でテーマが決められていったことを思い出しました。そして図書館の有する情報に驚きと感謝の念を改めて強くしました。

図書館では本を読むことができるだけでなく、映像資料やレファレンスサービスなどいろいろな資料や機能に触れることができます。特にレファレンスサービスでは、本学図書館が所蔵しない図書資料等へのアクセスの確保や自分の知りたいことを知ろうとするときに情報を提供してもらえます。

グループなどで自分たちの知りえたこと・考えたことを共有するためのディスカッションルーム、パソコンルームなどが図書館にはあります。マイクロフィルムとして保存される資料を確認するためのマイクロリーダーも準備されています。デジタル化された資料を読むこともできます。これらの図書館情報は図書館 HP よりアクセスが可能となっています。図書館を活用しようと思いたったのならば、実際に図書館を訪れることができますし、図書館 HP より「マイライブラリー」などの機能を活用することで時間と場所の制限から自由な環境で図書館と触れることが可能となります。

図書館ではいろいろなイベントを実施します。よく知られるところでは今年で 17 回目となる「図書館書評賞」があります。このイベントは本との対話や本が提供してくれるいろいろな情報を自分で吟味するという興味深い要素から成り立っています。「知」の可能性を見出すことやそれへの懐疑は学習を進める上でのインセンティブとなるでしょう。

人工知能 (AI) の影響が強調されて以降、近年では生成系人工知能 (生成系 AI) が話題となっております。AI との共存をますます実感することが多くなってきております。一方、人間が完全でないように、AI も不完全であることは見過ごすことはできません。人間と AI の持ち味をよりよく発揮できるよう、これによって提供される情報の効果を検証してみることは重要でしょう。より効果的な AI の活用を模索するときにも図書館の有する情報が役にたつことは多いはずです。

世の中は大きく変動しております。みなさまは自分をどのように措定しますか?! 世の中の流れに乗り遅れないように自分の「知」に磨きをかけることは重要です。しかしこれに流されてしまう必要はありません。世の中の流れに流されず、他人に阿ることもなく、そして孤立することもなく、自分とは何者であるのかを探し求めることは、自分の人生を生きる上で有益となることでしょう。図書館はみなさまの「探求」を支援します。是非、存分に図書館をご活用ください。